

第1回 雇用政策研究会 議事概要

平成26年10月21日

14:00~15:50

於：職業安定局第1・2会議室

○鶴委員

今回の研究会は雇用情勢の改善を前提においていると感じている。これから半年程度の景気の状態も注視していく必要がある。

業種ごとに人手不足の現状をきめ細かく分析することが重要。事務局提出資料をみると、今回の人手不足は製造業、非製造業の乖離が大きい。2004年~2007年頃は輸出主導型の改善で、製造業でも人手不足感があった。一方、今回は、建設業の正社員等、宿泊、飲食サービス業のパートの人手不足が目立っている。

○樋口座長

論点の処遇改善や人手不足対策については、景気の動向にも影響を受け易い論点。提言を打ち出す時点で、どのような形で打ち出していくかを見極めていくのも大切。半年後に提言を打ち出す時期に景気状況が変わっている可能性もあるので、景気に左右されずに起きる人口減少社会における人手不足対策といった中長期的な視点も入れた上で議論していく必要がある。

○玄田委員

今回の地域別労働力需給推計は都道府県別ということだが、市町村レベルの議論が求められているのではないか。地方創生の動きも踏まえて、ハローワークレベルで踏み込んでやらないといけないという感じであり、可能であれば各ハローワークの管轄地域ごとの有効求人倍率を出していただけないのか。研究会の場限りでも構わない。

地域から若者が必要とされているにも関わらず、若者がその地域に行かないのはなぜかを考えるべき。仕事がない、インフラ環境がない、子育てするためのコミュニティーの受け入れ体制がないなどもあるかもしれないが、地方での暮らしについて、どれくらいの生活費がかかるのか等、正確な情報がないということも大きいと考えられるので情報をきめ細かく提供していく必要がある。

また、ミスマッチとあるが、経済学では、一般的には人手不足になると賃金が上昇するはず。ミスマッチと賃金との関係の実態はどうなっているのかを分析して欲しい。

高齢者は大切な論点。65~69歳の就業率は4割である。地域包括ケアにより、福祉分野で働く高齢者も増える。医療や介護などの、いわゆる官製市場において、どのような仕組みで賃金が決定されているのか説明してほしい。

○鶴委員

人手不足にも関わらず、処遇改善が実現しない要因はマクロも大事だが個別業界におけるミクロな視点も必要。業種ごとの賃金動向と人手不足感との関係について分析できないか。建設業などでは賃金が下がっているのではないだろうか。また、処遇全体をみると、週労働時間 60 時間以上の労働者割合は宿泊、飲食サービス業で高い。労働時間が長い所では働きたくないという供給側の制約があることも考えられる。

○樋口座長

実態把握のための分析はすべきではないか。

○玄田委員

人手不足分野に若者やパートなど賃金が低い層が入ると平均賃金が押し下げられるので、人手不足と賃金の関係は、雇用形態ごとにみていくことが必要。そういった影響を排除するために、パネルデータを用いて、人手不足時に賃金が上昇しているか分析してほしい。

○宮本委員

地域雇用の議論のフレームとして、厚労省と自治体等の雇用担当以外の部局との関係がある。通達等で何かしらの依頼をすることができるのか教えてほしい。

2015 年問題という、自治体の社会保障・福祉分野の大改革に伴う 3 つの解決すべき課題がある。1 つ目は、介護保険改革関係。2 つ目は、生活困窮者自立支援法関係。3 つ目は、子ども子育ての新システム関係。いずれの問題も職業安定局と関係ないようであり、雇用が重要であるが、自治体の雇用部局との動きはかんばんしくなく、社会保障、福祉部局とつないでいくことができるかが重要である。

○大石委員

地域別労働力需給推計は難しい面があると思う。消滅可能性自治体と指摘された地域では色々な反応や取組が始まっているので、その効果の反映や配慮が必要。

全員参加社会について、労働市場の参加を促すことを指すのであって、多くの人々が多様な就業形態で働く場合には、医療、介護、保育も含む生活時間と労働時間は裏はらの関係にあるので、単純に労働時間を長くするという形ではない方向でお願いしたい。

○樋口座長

消滅可能性自治体のレポート（日本創成会議：増田座長）は人口の高齢化と労働力の減少という不都合な数字を直視してもらうために公表した。2030 年までの地域別

労働力需給推計を行う際は、出生率の影響は少ないが、労働移動などは影響が大きい
ため、配慮する必要がある。

少子高齢化について、労働力人口の減少は昔から議論されている。それにとどまら
ず、経営者の高齢化も考える必要がある。70歳くらいの経営者で後継者がいないと
いう話をする人が多く、企業の数自体が減ってしまう可能性がある。

○玄田委員

企業の開廃業について。生産性が高い企業の海外移転に加えて、後継者不在による
廃業も起きている。親族でない人への経営権の委譲も考えていく必要がある。これは、
狭義では違うのかもしれないが、広義では雇用の問題だと思う。

女性の活躍推進について、女性自身が様子見をしている。理由は均等法施行後に増
えた女性の労働時間に伴う疲弊。活躍推進の下で、また労働時間が増えるのではない
かという懸念があると思われる。85年の均等法後に起こった歴史から学んで欲しい。

高齢者の活躍推進については、年金制度が重要。働くと不利になる制度になってい
ないかどうか確認して欲しい。

○鶴委員

地方への人材還流が重要。後継者がいないならば外から入れないといけない。地方
にはたくさんの資源があるが、ほとんどが原石の状態。それを磨くことができる人材
がないことが問題だと考えている。

○樋口座長

労働者のマッチングだけでなく、経営者のマッチングも重要である。

○山川委員

主な論点の部分で、③の地域雇用だけが断絶しているように感じる。「課題が様々
である」という記載があるが、需要がないのが問題なのか、情報が無いのが問題なの
かなどわからない。①労働者の処遇改善、②人手不足対策より1つ次元が上の抽象的
な話になっている。もう少し具体的に書けないだろうか。

○樋口座長

雇用政策の守備範囲をどこまで取るのかということを考える必要がある。従来はマ
ッチング、雇用条件改善が雇用政策という風潮であり、雇用創出に関しては経産省で、
産業政策が上手くいけば雇用も生まれるという整理だった。しかし、良質な雇用機会
になっているかという点で経産省も所掌外になる。「ジョブクリエイション」は必要な
のにやってこなかった分野ではないか。個人的には雇用政策の中に読み込むのだと思

っている。

○玄田委員

前回の雇用政策研究会報告書の「職業能力の見える化」も重要だが、「地域の企業
の見える化」も考える必要があるかもしれない。大都市ハローワークでは企業取材に
力を入れているが、地域の企業が何をしているか、働く人に伝わっているかどうか。
こういう観点からの議論も重要である。雇用促進税制も目標の20万人の半分しか雇
用創出できなかった。「ミスマッチ」というだけではもはや問題は解決しない。

○山川委員

企業見える化は行政が明確に意識しているかどうかは別としても、現実にくるみ
ん、若者応援企業宣言事業などで少しずつ進んでいる。女性の活躍推進法も類似の考
え方。ただし、くるみんの実効性は検証の必要がある。

○樋口座長

企業の取組の公表について。公的統計では難しいと思うが、帝国データバンク等と
連携して、くるみん取得企業・若者応援企業などがワンクリックで確認できるシステ
ムなどがあってもいいと思う。

○堀委員

いわゆる就職氷河期世代のデータが少ない。問題を残したまま歳を重ねているこの
層への対策が必要ではないか。

若年者の労働移動に関しては、移動主体として見たミクロなデータが重要。どんな
人がどこへ行っているのかを見るべきである。

○鶴委員

正社員転換に関しては、どれくらいの人が転換対象となったのか統計がない。有期
雇用5年の無期転換に関しても、タイムリミットが近づく中でどういう動きが出てく
るか、相当綿密に見ていくこと、長期的な調査が必要。資料をみると、最近取れるよ
うになった不本意非正規雇用労働者は少しずつ減少しているのだから、政策効果として現
れているのだと思うが、厚労省として包括的な把握をお願いしたい。

○玄田委員

いわゆる就職氷河期世代の男性の非労働力人口は多く、ニート問題は中高年まで及
んでいる。これからの「若年者」の定義について再考すべき。また、生産年齢人口
の定義についても再考すべきではないか。

○樋口座長

景気変動も含めて、労働時間、賃金、開廃業などについてデータを整理すべきではないか。また、就業率についても年齢別・性別の資料を出すべき。たとえば、60歳代前半までは就業率が改善しているというが、政策ターゲットを65歳までとするのが正解なのか。65歳以降の雇用保険適用も視野に入れてもいいのではないか。

○宮本委員

もし、データがあれば2つ提供いただきたい。1つは、在職老齢年金と就業率の関係がわかるデータ。豊中市では新シルバー人材センターという事業があり、軽作業などが中心だった通常のシルバー人材センターより高度な業務を中間層が関わって行っている。盛況だという話を聞いているが、そういう層をどう活用するかに関係してくる。もう1つは、不本意非正規雇用労働者について、男女別の数字も出してほしい。

○大石委員

フリーターの定義は再検討すべき。女性は結婚したら政策対象から外れるというのは現在の世情にあっていない。既婚者、離婚者も対象とするべきではないか。